

# 令和6年度 学校評価報告書

## 1 本年度の重点目標

- 生徒一人ひとりの学校生活を充実させ、希望進路を100%達成するために
- (1) 基本的な生活習慣を養成し、社会人としての資質・能力を身につけさせる。
  - (2) 基礎学力の定着を図り、希望進路達成できる学力を身に付けさせる。
  - (3) キャリア教育を組織的に推進し、勤労観・職業観を身に付けさせる。
  - (4) 学校行事・部活動・地域連携活動の活性化を推進する。
  - (5) 安心して学校生活を送れるように安全教育を推進する。

## 2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している      B おおよそ達成している      C あまり達成していない      D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価	
		自己評価結果	改善の方策
学習指導 (教務部)	① 基礎学力の向上	B	全年次とも、統一の問題集に取り組んだ結果、みやぎ学力状況調査の結果で、国語の漢字や英語の基本的な文法の正答率が昨年より上回った。
	② 授業力の向上	A	研究授業を行い、授業の見学後には合評会で活発な意見交換をすることができた。授業の理解度に関する授業評価アンケートでは、92.3%が肯定的な回答であった。
	③ 「総合学科」教育の推進と充実	A	各系列が、地域の方々と連携しながら授業に取り組んでおり、その成果を各種大会や魅力発信イベントで発表することができた。
生徒指導 (生徒指導部)	① 挨拶・身だしなみの徹底	B	マナーアップ運動などを通して、生徒が自主的に元気づく挨拶をすることができ、外部の方からもお褒めの言葉をいただくことがあった。一方で、正しい制服の着こなしが徹底できておらず、生徒への声掛けや生徒会を中心とした働きかけの運動などを継続して実施していきたい。
	② 安心・安全な学校づくり	B	いじめのアンケートを年4回、学校生活アンケートを年2回実施することでいじめの未然防止や早期発見につなげた。交通マナーの悪さについて、ご意見いただくことが度々あったため、マナーアップ運動や立ち番指導の継続的な実施や日頃の声掛けを通して、マナー改善に努めていきたい。
	③ 活気のある学校づくり	A	体育祭、文化祭では担当教員や生徒実行委員が中心となり、円滑な運営と生徒の主体的な取り組みで行事を盛り上げることができた。生徒会においては、学校や生徒会への要望事項を生徒から集約し、よりよい学校づくりを考えていきかけづくりを行った。実現可能な要望を遂行していきたい。
進路指導 (進路指導部)	② 生徒個々の学力の定着指導および適性・実力把握	B	ベネッセ基礎力診断テストやSPIテスト、適性検査などを実施している。多くの生徒が就職希望のため学校での学習や検定試験に向けた学習に取り組む姿は見られている。進学者への働きかけを行うことも考えている。
	③ 進路行事の充実	B	行事の見直しを進め各年次ごとに適した行事を計画してきた。各年次ごとに外部業者を活用した進路ガイダンスや地域の事業者の方の講話、インターンシップ体験、企業見学会などを実施し、個々の進路目標に活かせるものとなった。
	④ 保護者への適時・的確な進路情報の提供	B	今年度は、3年次生徒保護者対象の進路説明会を行ったり、夏の三者面談の際に県内企業に関する冊子の無料配付を行ったりした。また、面談の際に各担任から進路に関する希望を聞き取り、情報の提供を行っている。SNSを活用した進路情報発信なども行って行きたい。

4 系列 の特長 ある 教育 活動	① 農学系列の教育活動の推進	B	大張沢尻の棚田実習では、棚田集落協定の他に丸森町、宮城県、東北農政局など協力を得ながら取り組んでおり、活動が年々発展しており、注目される活動になっている。地元の農業文化を受け継ぐ意味を授業に組み込んで、実習を行っているため生徒達の集中力も向上している。また、メディア等で注目されることで生徒のやる気を引き出し、自己肯定感を養う取り組みに繋がっている。
	② 機械系列の教育活動の推進	A	地域のイベントへの出展、ゴミ集積所の寄贈、ふるさと納税の出品など地域連携を推進することができた。また、企業、大学と連携してドローンの利活用についても取り組んだ、そしてこの取り組みを通して、地学地就を概ね実現することができた。
	② 情報(商業)系列の教育活動の推進	A	地域連携活動として、地元企業と協力して商品開発に取り組み、伊具高祭等で販売し、学校行事の活性化に協力することができた。更に地域特産品製作に協力する活動も実施できた。その他外部講師から講義を頂く機会も増やし、勤労観・職業観を養うことが出来た。学習面では進路達成の一助としての資格取得に取り組み、多くの生徒が目標に向けて努力した。
	③ 福祉系列の教育活動の推進	A	校外での介護実習の実施や、様々な教科での外部講師の活用によって、実際の現場の視点も取り入れながら指導を行うことができた。また、技術検定では全分野において3級まで実施し、生徒がより専門的な知識を学べる機会を設けることができた。館矢間小学校やミネ幼稚園と連携した「防災教育」を行い、生徒の学びを深めることができた。
地域 学校 づくり (総務部)	① 地域への学校情報発信の充実	A	周囲の協力もあり雁歌学報の定期発行や配布、HPでの随時の発信を行えた。また校外の行事を外部に発信し、新聞・TV等に取り上げられる機会が増えた。
	② 地域と連携した教育活動の推進	A	中学校への出張模擬授業の実施や一日体験入学などの活動で、中学生が伊具高校への関心を増やすことができた。
	③ PTA活動の充実と同窓会との連携	B	予定していた行事については概ね実施することができた。役員の協力もあり、各年次の取り組み(企画・広報・事業)も進めることができた。